

乳牛の分娩前における子宮頸管の変化に関する調査

岡本昌三*・石井尙一*

OKAMOTO, S. & ISHII, S. On the Change of Cervix before Parturition in Dairy Cows

分娩前における子宮頸管の変化によつて乳牛の分娩時刻予察の成否を検討する。

方法 分娩予定日 2 週間前から随時子宮頸管外口の哆開程度を触診すると共に尾根部両側の陥凹程度を目測調査した。(正常分娩したホルスタイン種 14 頭 24 分娩)

成績及び考察 頸管外口の哆開程度を第 1 皺襞に挿入可能な指数をもつて示すと別表の通りである。

初産牛では分娩の 9 ~ 2 日前から第 1 皺襞より漸次哆開するが、産次の増加したものでは哆開が更に早くから始まる傾向が認められた。しかしながら初産牛、

経産牛ともに尾根部両側の陥凹が始まるのは略々分娩の 7 ~ 4 日前であり、また頸管が完全に軟化し拳が挿入できる程度に哆開するのは、共に分娩の略々 24 ~ 6 時間前であつて多くは分娩の 12 ~ 6 時間前において分娩時刻の予察が可能であると考えられる。考令牛 (10 才以上) についても 2 頭 3 分娩について調査したが個体差が著しく確言出来ないが産次が増加するに伴つて頸管の哆開開始後の経過はますます長びくものようである。

なお分娩前の数回の頸管触診が原因となつて早産・難産・頸管炎等の障碍を惹起した例はなかつた。但し陰部及び手指の消毒は厳重に行つた。

分娩前における第 1 皺襞哆開程度

区分	第 1 皺襞の 状態	分娩前 13日 以上	12日 ~	8日 ~	5日 ~	3日 ~	2日 ~	1日 ~	12時間 ~	6時間 ~	2時間 ~	1時間 ~	調査 回数
初産牛 (5 頭 5 分娩)	指 1 本 挿入		1	4	3	2	1						11
	2 本 //			1		1	1	1					4
	3 本 //			1	4	2	1		1				9
	4 本 //						1						1
	5 本 //								1				1
	拳 //									2	1		3
	胎 胞 触 知 第 1 破 水										2		2
第 2 破 水										1	1	3	3
経産牛 (10 頭 16 分娩)	指 1 本 挿入	1 (3)	7 (5)	9 (2)	5	2	3	1					28 (7)
	2 本 //		2 (4)	1 (7)	1	1	3	1					8 (14)
	3 本 //		1 (5)	1 (5)	1 (9)	2 (2)	2 (2)	2 (1)					5 (24)
	4 本 //		1	3 (5)	3 (4)	2 (3)	3 (3)	2 (2)	2				11 (17)
	5 本 //				2 (2)	1 (2)		2 (1)	2				3 (9)
	拳 //							2 (1)	2 (1)	4 (1)			2 (3)
	胎 胞 触 知 第 1 破 水										1 (2)		5 (4)
第 2 破 水										5 (2)	3 (3)	8 (5)	
											5 (2)	5 (2)	

備考 経産牛の表中 () 内の数値は 4 ~ 7 産次の牛、その他は 2 ~ 3 産次の牛についての調査回数を示している。

*九州農業試験場